

成人遷延性慢性咳嗽の治療前診断における呼気中一酸化窒素濃度(FeNO)測定の有用性

雨宮徳直

あめみや内科

【背景と目的】気道炎症は喘息の重要な病態であり、呼気中一酸化窒素濃度（以下FeNO）測定は、その評価に有用である。平成25年6月1日よりナイオックスマイノ（チェスト株式会社）によるFeNO測定が呼気ガス分析（100点）として保険適用された。遷延性慢性咳嗽患者の治療前診断にFeNO測定は有用な可能性がある。

【対象と方法】平成25年6月1日から7月31日に当院を受診した成人遷延性慢性咳嗽患者65人のうち、問診、身体所見、胸部レントゲン検査等を行い、咳喘息およびアトピー咳が疑われる患者33人にFeNOの測定を行った。ツロブテロールテープ貼付薬を投与し、7-14日後に効果を判定し治療後診断を行った。

【結果】ツロブテロールテープの効果は著効16人、有効6人、やや有効4人、無効5人、不明2人であった。最終診断は咳喘息23人、アトピー咳4人、確定できず6人であった。咳喘息23人のFeNO中央値は25ppb、アトピー咳4人のFeNO中央値は10ppbであった。FeNOのカットオフ値を22ppbとしたとき、咳喘息では13人（50%）、アトピー咳では0人（0%）がFeNO陽性と判断された。

【結論】成人の遷延性慢性咳嗽の治療前診断においてFeNOの測定は有用である可能性を示唆する。